

保存用

持出禁止

インドネシア国
スラバヤ グレーピングドック建造工事
調査報告書(抜粋)

昭和 46 年 3 月

海外技術協力事業団

国際協力事業団

08348

目 次

I 序 論	1
II 結 論	7
III 附 属 資 料	16

附図2 ドック位置図

〃 3 ドック配置図

〃 9 ケーソン配置図

〃 16 潮位関係図並びに入渠船とドック断面
との関係

附表3 実績工程表

〃 4 残工事工程表

〃 7-8 本設及び仮設用補充機械・部品に要す
る費用

〃 11 派遣技術者所要人員表

〃 12 現地工事費入金実績表

附属文書1 グレービング・ドックに関する国防治
安省決定書

2 完成後のグレービング・ドック運営に
関する書簡

JICA LIBRARY



1055284[2]

I 序 論

1. 調査の目的

インドネシア国スラバヤにおいて同国政府が建造中であるグレーピング・ドックにつき、昭和45年(1970年)6月インドネシア政府より日本政府に対し円借款供与方要請があったが、本調査団は同要請にたいする日本政府の検討に資するため、ドック工事の経緯、現状、残工事計画及び進入水路に関する調査を実施し、本ドック工事完遂のための技術的可能性を明らかにするとともに本ドック完成までの所要期間及び追加資機材の必要量、工事管理の必要性とそれらに要する費用の見積り並びに進入水路の現況を把握することを目的とした。

2. 調査項目

上記目的を達成するため、具体的には次に示す各項目に従って調査を実施した。

- (1) 工事進捗程度および完成までの所要工事並びに日数
- (2) 使用機械類の損耗状況および代替補充機械類(部品を

含む)の必要量並びに費用

- (3) 追加資材の必要量および費用
- (4) 工事監理に必要な派遣技術者数および費用
- (5) 進入水路の現状に関する調査

3. 本調査報告に関する前提条件

今回の見積については過去の実績を基礎とし、それに調査時点における各種条件を考慮の上試算したものである。従って、之の予想を上回る次の如き前提条件は当然含まれねばならない。

- (1) 戦争・政変および大なる経済変動が起らないこと。
- (2) インフレが極度に進行しないこと。
- (3) ルピア資金の確保およびその支払いが確実に励行されること。
- (4) 土質について現在以上の大幅な変更が現われないこと。

4. 調査団の構成

団長	運輸省	船舶局	網本	汀司
団員	"	"	牧沢	義徳

団員 運輸省第二港湾建設局 大場 昭吾

〃 建設省関東地方建設局 吉村 弘

〃 海外技術協力事業団海外事業部

吉田 芳夫

なお、外務省経済協力局 原 旭 事務官が本調査団に
同行した。

5. 調査日程

(1) 調査期間

自昭和45年12月8日 至昭和45年12月25日

(2) 調査日程

自	至	場 所
12月 8日		東京発 ジャカルタ着
12月 9日	12月10日	ジャカルタ
12月11日		ジャカルタ発 スラバヤ着
12月12日	12月19日	スラバヤ
12月20日		スラバヤ発 ジャカルタ着
12月21日	12月22日	ジャカルタ
12月23日		ジャカルタ発 シンガポール着
12月24日		シンガポール発 香港着
12月25日		香港発 東京着

(3) 主な訪問先および調査先

本調査団の調査期日中の主な訪問先・調査先とその内容は下表の如し

訪 問・調 査 先	面 接 者	内 容
日本大使館 (第1回)	八木大使 有田公使 枝村参事官 岩本書記官 中岡調査員(建設省) 小山専門家 横田専門家 佐山所長(OTCA)	寿慶及び調査予定の詳細打合
インドネシア政府 (第1回)	Col. URIP (インドネシア海軍) Maj. SOENARTO (") Director. General. SUKATON (Maritime Preconction & Service) Secretary Director PARTANA (") Chief Director. WASONO (Chief Directorate, Overall Management of Shipyards & Enterprises)	本調査団よりの総括質問および調査についての便宜供与の要請 (調査団側には岩本書記官及び中岡調査員が同行)

訪 問・調査先	面 接 者	内 容
スラバヤ, 日本 領事館	有 吉 領 事 山 崎 副 領 事 松 津 理 事 官	表 慶
スラバヤ海軍基 地司令部 (第1回)	Col. URIP (インドネシア海軍) Col. SOEDARSONO (ス ラバヤ海軍基地司令部) Maj. SOENARTO (インド ネシア海軍) Maj. SOETOPPO (スラ バヤ海軍基地司令部) 担当士官全員	1. 調査日程および調 査要領の打合 2. 細部質問および資 料要求
ドック建設現地	Maj. SOETORO (スラバ ヤ海軍基地司令部) 担当士官全員	1. 調査項目に基づき 各専門(総括・土木 機械および水路)に 従って現地調査 2. 過去の経緯および 将来計画に関する事 情聴取 3. 入手資料の検計

訪 問・調査先	面 接 者	内 容
スラバヤ海軍基地司令部 (第2回)	第1回と同様	調査終了に際し調査に関する所見
インドネシア政府 (第2回) (BAPPENAS Meeting)	DR. SOEMALIN (BAPPENAS) Col. URIP (インドネシア海軍) Maj. SOENARTO (") Director General SUKATON (M. P. S) Mr. ALI (造船総局修繕課長)	1. 調査団より調査に関する所見 2. 両者よりの質疑応答 (調査団側には岩本書記官が同行)
日本大使館 (第2回)	有 田 公 使 岩 本 書 記 官 中 岡 調 査 員 (建設省) 後 出 調 査 員 (運輸省)	調査団より調査に関する概況報告を行なう

Ⅱ 結 論

本プロジェクトが1963年から7年の歳月と莫大な資金を投入したにもかかわらずなお完成に到らなかった理由としては、次の5つが挙げられる。

- (1) 1965年のいわゆる9.30事件をピークとする国内混乱
- (2) 工事開始時から最近まで続いた激しいインフレ
- (3) 外貨に対応する国内ルピア予算の不足及び支払の遅延
- (4) ドック建設技術及び管理能力の不足
- (5) ドック東側鋼矢板後部法面の崩壊事故

このうち、(1)～(3)は技術上の問題ではないが、本工事が遅延した最も大きい原因である。

しかし、現在ではこれらの事象のうち(4)を除いては下記の理由によりほぼ解消されたとみてよいであろう。即ち、

(1)については、スハルト政権が樹立されてからすでに数年を経た現在、同政権は安定し巷間の動揺はなくなっていること。

(2)については、上記政権による各種抑制策等の堅実な経済政

策によって約1年前後からほぼ落ち着いた状態にあること。

(3)については、1970年4月に発せられた本プロジェクトの推進に関するスハルト大統領署名の決定書によって、工事完成までの3ヵ年間他に流用されることのない予算 Rp. 540,000,000が確定し、現地に対する支出もその後順調に行なわれていること。

(5)については、現在事故現場における地盤崩壊のおそれは全くなくなっていること。

従って、本工事を予定期日までに完成するためには、インドネシア国内では調達が出来ない機械・器具及びその部品、鋼材、セメント等の供給と施工の指導並びに工事監理を行なう技術者の派遣をできるだけ早急に実現することが最も必要であると考えらる。

なお、本調査団の直接の目的とするところではないが、インドネシア海軍本ドック建設責任者より、文書をもって、本ドックは完成後民間企業体 (*a civil commercial & industrial body*) によって管理運営され、その民間企

業体はあらゆる種類の船舶の修理のため、海軍及び運輸省と協力する旨、本調査団に通報越している。

調査の目的とする事項別に結果をまとめると次のとおりである。

1. 工事の進捗程度及び完成までの所要工事並びに日数

現在までの工事の進捗率は7年という長い歳月をかけた割りには極めて低く、調査時点においては、地上から見られる構造物は渠口を除いては殆んど施行されていない。しかし本工事の中でも最も難工事であるケーソン工事はすべて完了し、据付状態も良好であり、又技術的にも困難な渠底掘削のためのストラット設置工事の過半が終了している現状からみて、その進捗率は60%前後と判断することが出来るであろう。

1970年12月から完成までの残工事は付表4のとおりである。

現在インドネシア側が目標としている完成期日は1972年12月末であり、これは我が国におけるドック建設工事期間と比

較すると非常に長いが、この国における工数の原単位が一般に我が国の約半分以下程度であり、ドック工事に対する経験の不足、部岳等の調達難による建設機械の補修の遅滞、工程管理等管理水準の低さなど幾多のハンディキャップがあるので、これらを考慮に入ればこの工事期間は妥当なものであり、少なくとも1971年7月までに所要資機材を投入し、かつ適切な技術指導を行なうことにより、予定期日までの完成は十分可能なものと考えらる。

2. 本・仮設用機械の損耗状況及び代替補充機械類の必要量並びに費用

本設及び仮設用機械類は賠償及び賠償担保契約に基づいて1970年3月までに全て入手済みであるが、過度のインフレ及び9・30事件に起因する国内混乱のための機材の盗難、本設用から仮設用への一部の流用が行なわれた時期があり、これらによる数量の不足が相当みられるほか、仮設用機械の損耗は工事の延伸による耐用年数の経過もあって予想以上に激しく工事遂行のためには最少限付表-7及び

8の追加機械及び部品を必要とするものであり、それに要する費用は8420,300と算出される。

ただし、現在使用又は保管されている機械類の保守管理に関しては、不完全なものが多く、早急に正しい保守管理を行なうとともに、本設用機械類については少なくとも据付の6ヵ月前までにそれらの製品の専門家による点検、整備を行ない据付に当って支障のないよう配慮する必要がある。

なお、保守管理に要する費用はルピア予算中に組み込まれているが、これを超える補修費及び保守が不完全なために生ずる機械及び部品等の代替に要する費用はインドネシア側の責任において別途調達するべきものと考え費用算出に際して考慮していない。

3 追加資材の必要量及び費用

追加を要する資材は、工程の遅延により風化を怖れて他へ流用したセメントの補充、及び渠壁の設計変更等による鉄筋の不足量のうち、MISPRI 354 (70) により補充し

得なかったものとしてセメント14,500トン、鉄筋700トンが必要であり、その費用は8393,600と算出される。

4 工事監理に必要な技術者数及び費用

残工事のうちインドネシア側の技術者のみで可能と思われる工事は、単純にその工事をこなすということであれば、渠壁のコンクリート打設をはじめ数種のものが考えられるが、これからの工事には幾つかの種類の工事が複雑に重なり合って進められて行かなければならないものが多く、非常に高度な管理技術をとり入れる必要があり、また、未経験工事の中には施工の仕方によっては簡単な手直しでは修復できない配管・配線の如き工事が含まれており、現地において直接の指導を行なうことがこのプロジェクトを予定期日までに使用可能な形で完成させる重要なポイントであると思料される。

従って、少なくとも1971年4月以降完成予定期日までの間最低7名の技術者を建設工程に合わせて派遣し、肌理の細かい助言・指導を行なう必要があると考える。

なお、これに必要な費用は8442,700と算出される。

5. 進入水路の現況

本ドックに入渠する船舶のための航路は、北側に長さ約850m、幅約65mの狭水路がノカ所あるのみで、この水路の水深はドックの稼働に重大な影響を与えるため調査目的に加えられたわけであるが、現状はA.R.P.-1m~-5mでありドック完成までには全面的な浚渫を行なう必要がある。

また、西側護岸はオランダ時代に築造されたもので、100年以上を経過した箇所もあるようであるが、構造図、設計計算書等は全くなく、どの程度までの浚渫に耐えられるかは本格的な調査を待たねば結論づけられない。

これに対し、インドネシア側の計画は、海軍がドックとは無関係に行なっている1970年度浚渫計画（水路のほぼ全域に亘りA.R.P.-6m程度）と、ドック建設計画の一環としてドック完成の直前に予定している進入水路浚渫計画（A.R.P.-7mまで）があり、インドネシア側が予定

している最大船舶の入渠には現計画で大きな支障はないものと考えられるが、本港では埋没傾向がみられるので、水路を良好な状態に保っておくためには定期的に維持浚渫を行なう必要がある。

一方、護岸については改修等の計画はもっていないが、過去における浚渫実績と調査期間に得た若干の資料から推測して、この程度の浚渫を行なっても直ちに倒壊する危険はまず無いと言えよう。

以上の結果、本ドックの完遂は技術的にみて充分可能とみとめられ、その完成予定期日は資機材投入時期を条件として1972年12月、完成までに要する外貨は合計8,256,600である。

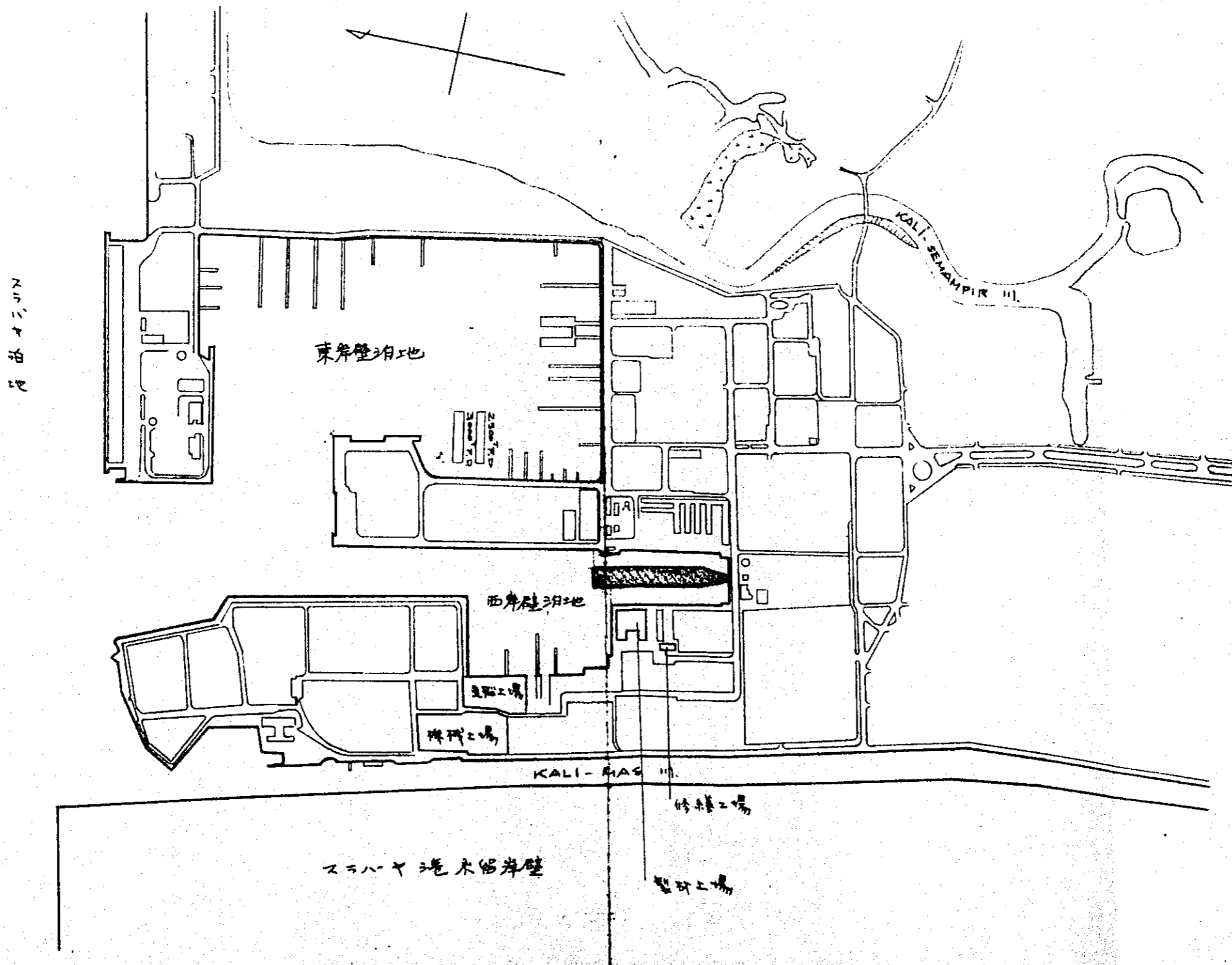
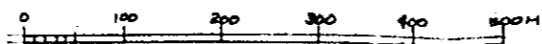
最後に、本工事の工程が著しく遅延し、資金及び資機材を必要以上に要することとなった理由については、本章冒頭に述べた諸般の事情がその主因であることは明白であるが、現在までの工事監理者が行なった諸管理のすべてが妥当なものであったとは言えぬものがあり、一方、イン

ドネシア側においても工事監理者の技術上の助言や管理上の指示に関して必ずしもそれが全面的に受け入れられ、実行されたとは見受けられないところもあり、これらのことも一因と見なそうるように考えられる。

以上のことから、今後工事を続行するにあたっては、インドネシア政府に対しては、工事監理者の行なう助言・指導を尊重し、これを迅速かつ適確に工事に反映するための態勢を整えるよう要請するとともに、工事監理者に対してもインドネシア側の担当者に対する指導等を行なうにあたっては、厳しい技術者精神に徹してこれを行なう必要があることを強く付言したい。

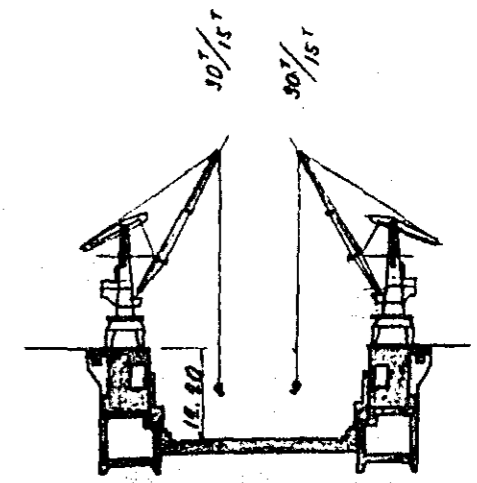
Ⅲ 附 屬 資 料

SCALE = 1:6,000

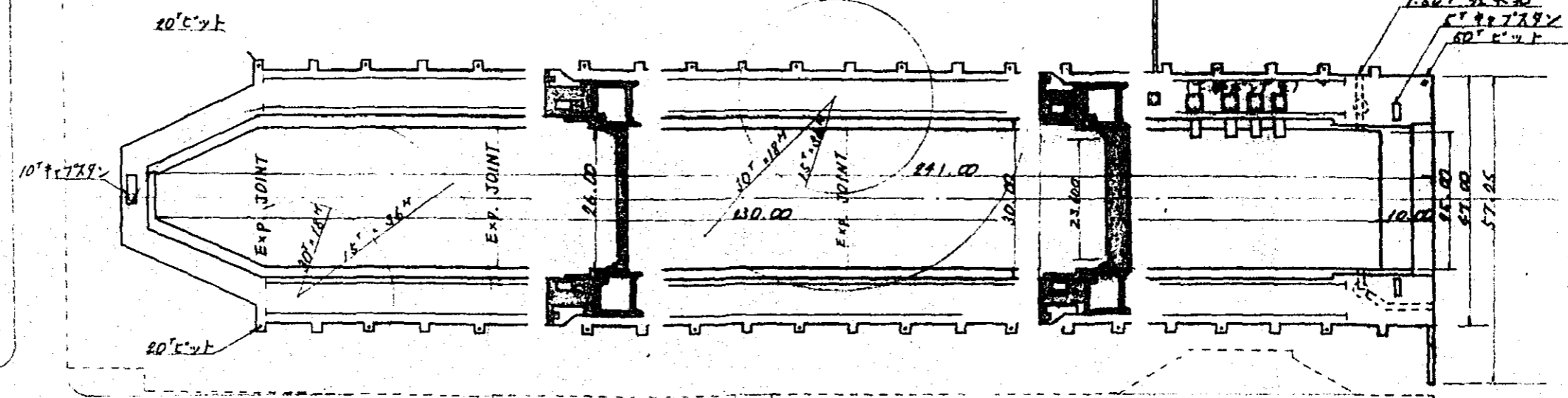
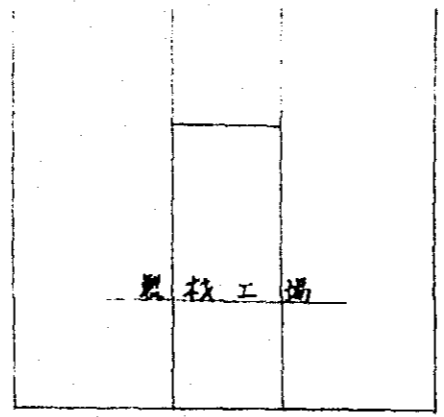
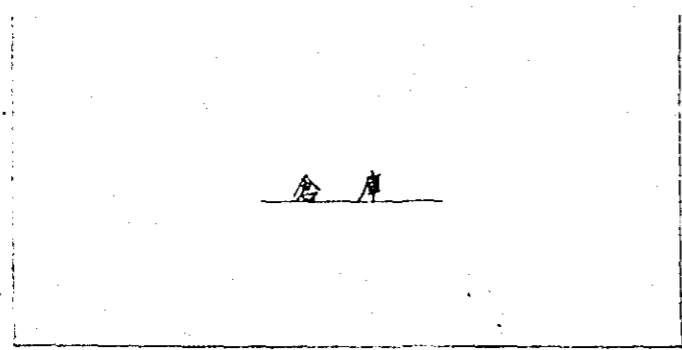


付図-3 グレーブドック配置図

S = 1 : 2,000

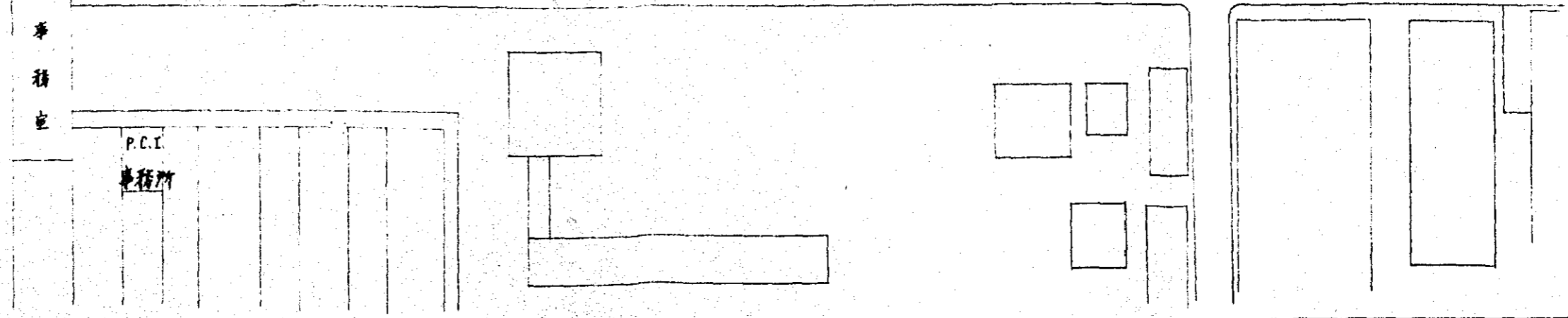
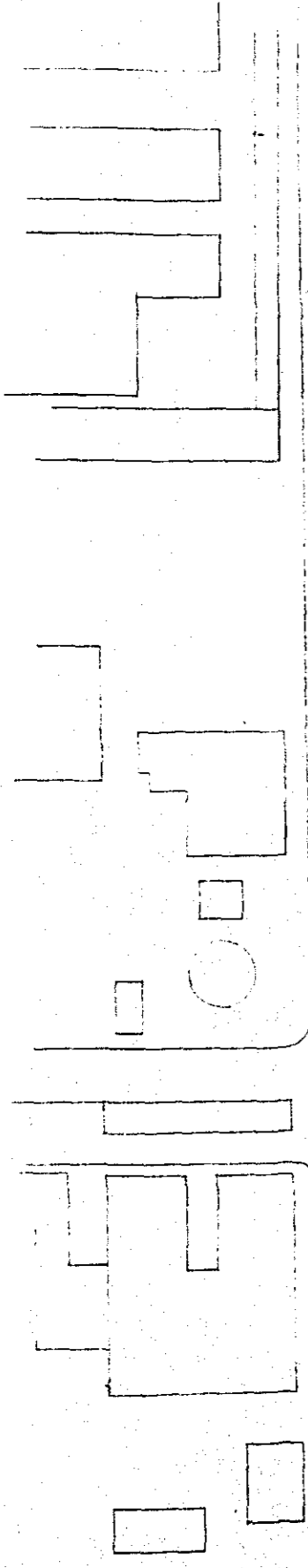


機具部
修理室
配電室
空気
圧縮機室



事務室

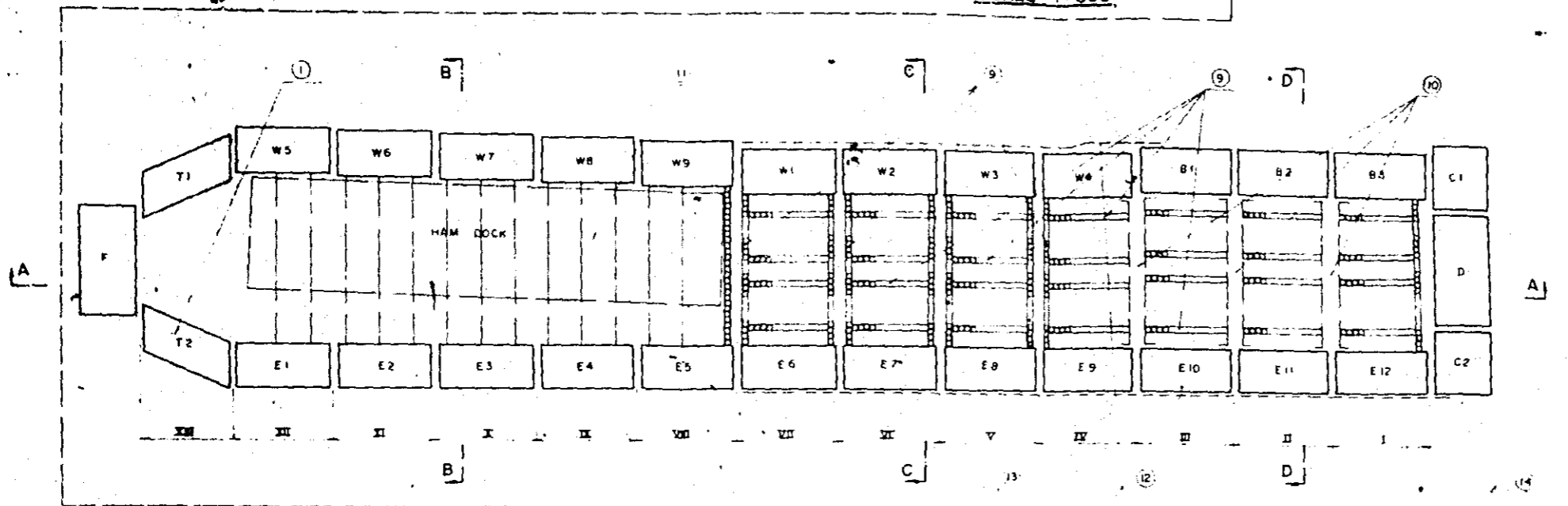
P.C.I.
事務所



GENERAL ARRANGEMENT OF CAISSONS

付図-9 ケーソン配置図

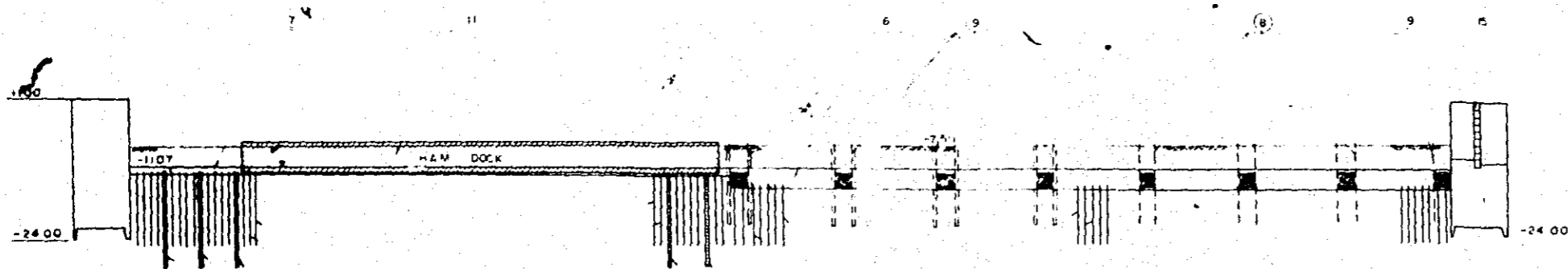
SCALE 1:500



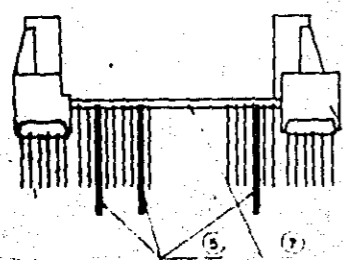
WORKS

①	CAISSON WORK (F, T1, T2)
②	CAISSON WORK (W1~9, E1~12)
③	CAISSON WORK (B1~3, C1~2, D)
④	CONCRETE PILE WORK
⑤	FRICION PILE WORK (PIPI)
⑥	DOCK BOTTOM
⑦	DOCK BOTTOM
⑧	SHEET PILE WORK FOR CAISSON STRUTS
⑨	PIP WORK FOR CAISSON AND PARTIAL STRUTS
⑩	CAISSON STRUT WORK
⑪	DEMOLISHMENT OF HAM DOCK
⑫	SHEET PILING BEHIND CAISSON
⑬	SHEET PILE WORK
⑭	COFFER-DAM
⑮	MEETING STONE WORK

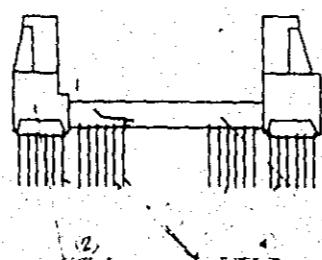
A-A SECTION



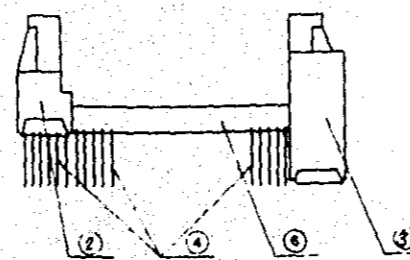
B-B SECTION



C-C SECTION



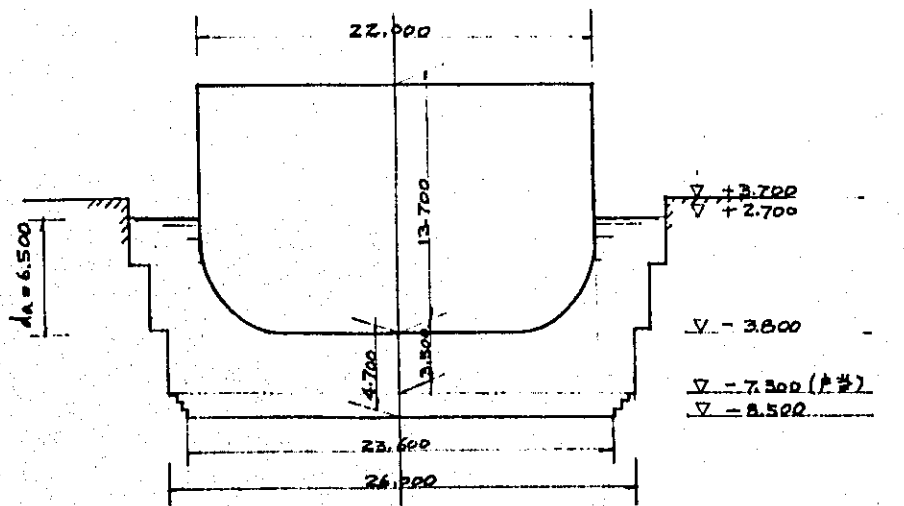
D-D SECTION



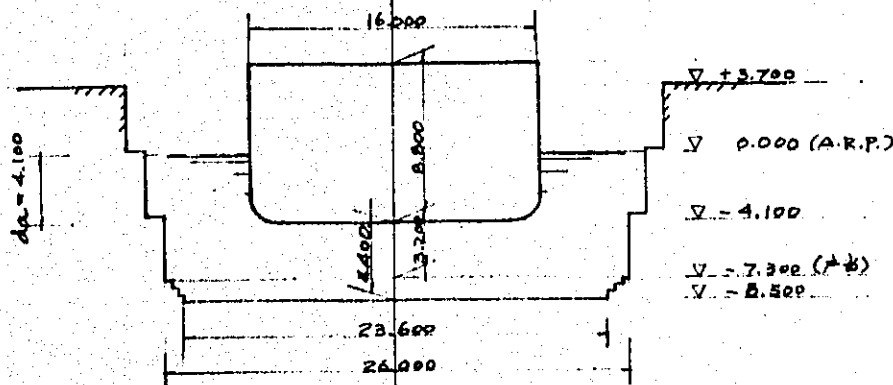
潮位関係図並に
 附圖-76 入渠船とDOCK断面との関係.

$\nabla + 0.52$	H.H.W.L. (最高高潮位)	($\nabla + 3.22$)
$\nabla 0.00$	S.H.V.P. ドック工事の工率用基準面	($\nabla + 2.70$)
$\nabla - 0.57$	H.W.L. (大潮平均高潮位)	($\nabla + 2.13$)
$\nabla - 1.20$	M.W.L. (平均水面)	($\nabla + 1.50$)
$\nabla - 1.82$	L.W.L. (大潮平均干潮位)	($\nabla + 0.88$)
$\nabla - 2.70$	A.R.P. 海図の基準面	($\nabla 0.00$)
$\nabla - 2.72$	L.L.W.L. (最低低潮位)	($\nabla - 0.02$)

SURABAJA 港 潮位関係



210M 型 船 入 渠 吃 水



5000 噸 型 船 入 渠 吃 水

PROGRESS REPORT OF THE GRAVING DOCK PROJECT

ITEM	KIND OF WORKS	1962												1963												1964												1965												1966												1967																																				
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12													
1	PREPARATIONS	PREPARATIONS																																																																																																
2	ASSEMBLING OF CONSTRUCTION EQUIPMENT																									ASSEMBLING OF CONSTRUCTION EQUIPMENT																																																																								
3	SURVEY - WORK																									SURVEY - WORK																																																																								
4	DEMOLISHING OF HAM-DOCK UPPER PART													DEMOLISHING OF HAM-DOCK UPPER PART																																																																																				
5	COFFERDAM																									COFFERDAM																																																																								
6	RETAINING ^{CUT-OFF} WALL AROUND THE DOCK																									RETAINING ^{CUT-OFF} WALL AROUND THE DOCK																																																																								
7	MANUFACTURING OF CONCRETE-PILES																																					MANUFACTURING OF CONCRETE-PILES																																																												
8	SOIL INVESTIGATION																									SOIL INVESTIGATION																																																																								
9	TRANSPORTATION OF SAND																																					TRANSPORTATION OF SAND																																																												
10	TRANSPORTATION OF STONE																																					TRANSPORTATION OF STONE																																																												
11	DEWATERING																																					DEWATERING																																																												
12	BANKING																																					BANKING																																																												
13	CAISSON-WORKS																																					CAISSON-WORKS																																																												
14	CONCRETE-PILE DRIVING FOR CAISSON																																																	CONCRETE-PILE DRIVING FOR CAISSON																																																
15	SOIL EXCAVATION UNTIL-7M																																					SOIL EXCAVATION UNTIL-7M																																																												
16	SHEET-PILE DRIVING FOR STRUTS																																																																																																	
17	PIP PILE DRIVING STRUT & PARTIAL STRUTS																																																																																																	
18	CAISSON STRUT CONSTRUCTION																																																																																																	
19	SOIL EXCAVATIONS FOR DOCK BOTTOM																																																																																																	
20	CONCRETE PILE DRIVING FOR DOCK BOTTOM																																																																																																	
21	PIP FRICTION PILES FOR DOCK BOTTOM																																																																																																	
22	CONCRETE POURING FOR DOCK BOTTOM																																																																																																	
23	DEMOLISHING OF HAM-DOCK. LOVER PART																																																																																																	
24	SETTING OF MEETING STONES																																																																																																	
25	REFERENCE																																																																																																	

ACTUAL STARTING DATE - FEBRUARY, 20, 1964

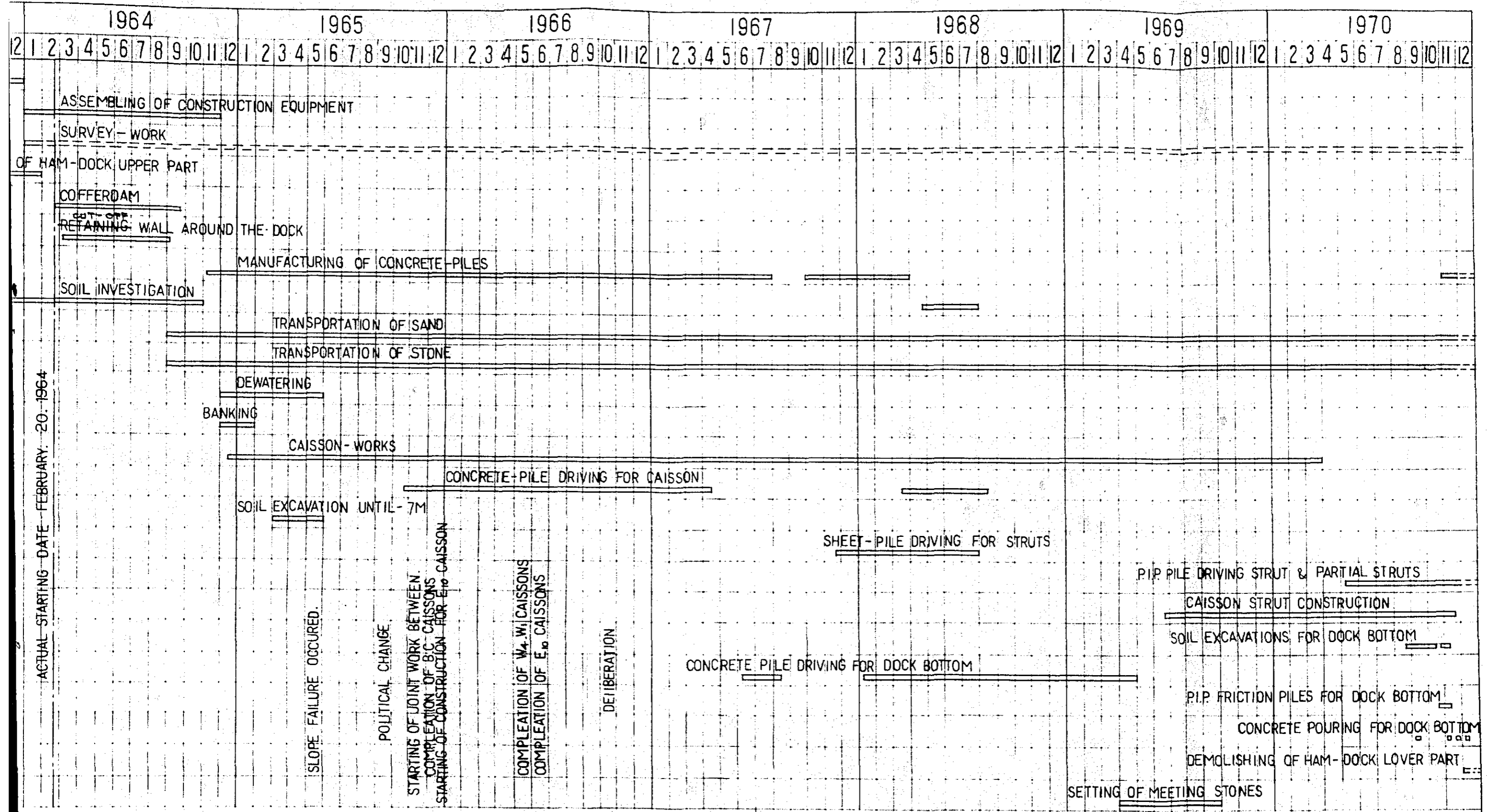
SLOPE FAILURE OCCURED.
POLITICAL CHANGE.
STARTING OF JOINT WORK BETWEEN COMPLETION OF B.C. CAISSONS
STARTING OF CONSTRUCTION FOR E₁₀ CAISSON

COMPLETION OF W₄ W₁ CAISSONS
COMPLETION OF E₁₀ CAISSONS

DELIBERATION

CONCRETE

PROGRESS REPORT OF THE GRAVING DOCK PROJECT.



ACTUAL STARTING DATE - FEBRUARY, 20, 1964

附表—7.8 (抜すい)

本設及び仮設用補充機械・部品類に要する費用

区 別	名 称	数 量	金 額
本 設 用	機 械 部 品 等		US\$ 9.035
	電 気 部 品 等		" 50.648
	小 計		" 59.683
仮 設 用	クローラクレーン	1	US\$ 47.888
	フォークリフト	1	" 9.177
	ブルドーザー	1	" 22.031
	ダンプトラック	10	" 61.770
	潜水ポンプ	8	" 5.644
	機 械 部 品 等		" 102.144
	電 気 部 品 等		" 64.963
	メタルフォーム		" 47.000
	小 計		" 360.617
合 計		US\$ 420.300	

附表-11

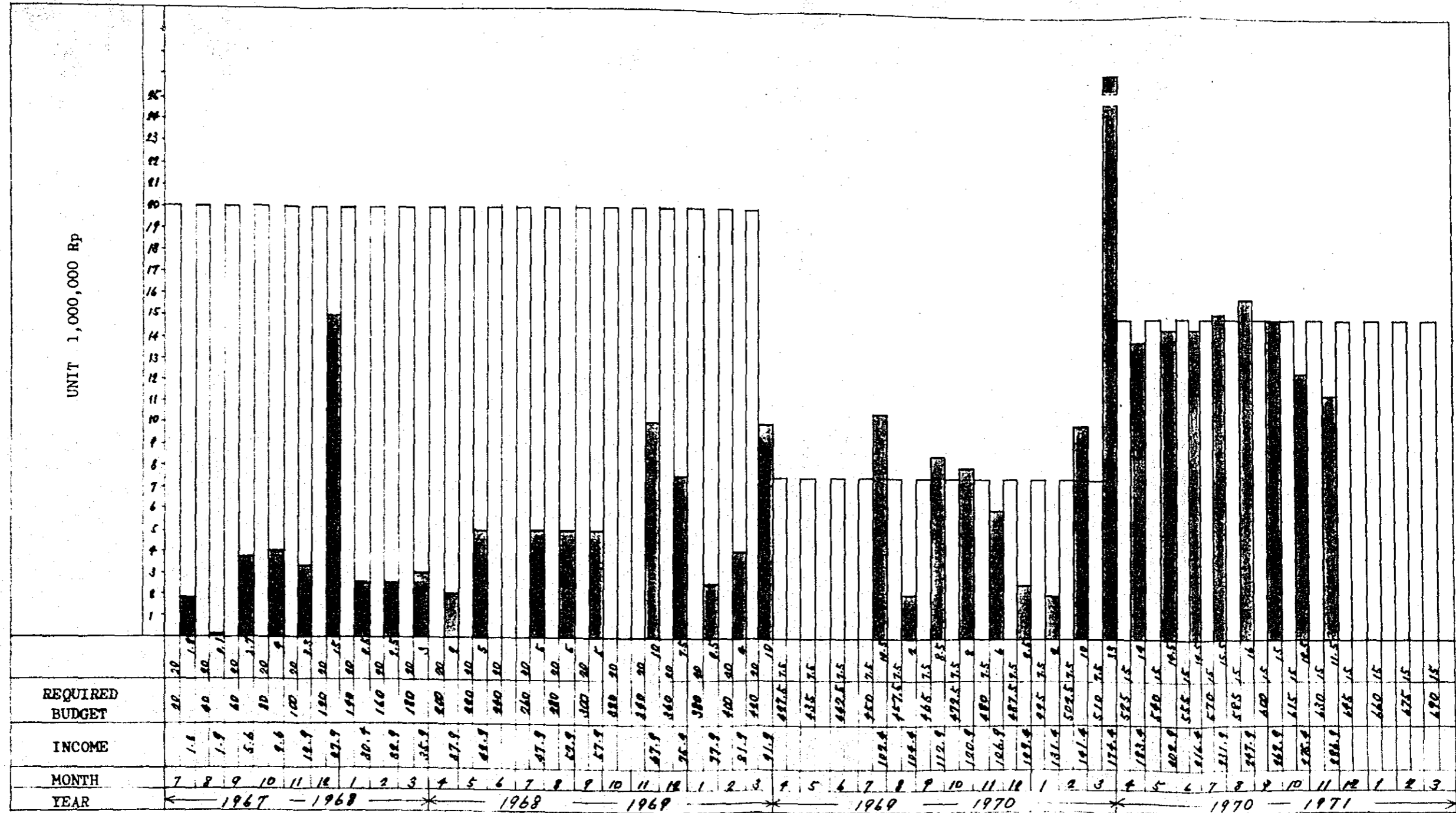
派遣技術者所要人員表

(1971. 4 ~ 1972. 12)

職名	定員	担当	必要理由 (実施工事)	滞在期間						延月数	単価 (円/月)	給料 (円)	備考
				1971			1972						
				3	6	9/12	3	6	9/12				
Superintendent	1	工事総責任		必要時(3回)						3	1,490	4,470	
Special Consultant	1	特殊技術		必要時(6回)						3	1,930	5,790	
Project Engineer	1	現地における 総責任	現地における全工事監理等	[Bar chart showing presence from 1971.4 to 1972.12]						21	1,040	21,840	
Senior Engineer	1	土木工事	同上補佐, 土木一般	[Bar chart showing presence from 1971.4 to 1972.12]						21	840	17,640	
Assistant Engineer	1	土木, 機械	土木, 機械, 電気, 総括工事 管理	[Bar chart showing presence from 1971.4 to 1972.12]						21	500	10,500	
"	1	"	コンクリート施工, 機械基礎 据付等	[Bar chart showing presence from 1971.4 to 1972.12]						19	500	9,500	
"	1	"	現地における設計等	[Bar chart showing presence from 1971.4 to 1972.12]						16	500	8,000	
Senior Engineer	1	土木工事	PIP及びカパクト工事指導	[Bar chart showing presence from 1971.4 to 1972.12]						13	1,040	13,520	
Technician	1	"	"	[Bar chart showing presence from 1971.4 to 1972.12]						7	840	5,880	
Mechanic	1	機械据付・整備	ポンプ, 保船関係及び配管	[Bar chart showing presence from 1971.4 to 1972.12]						16	840	13,440	
"	1	"	クレーン据付等	[Bar chart showing presence from 1971.4 to 1972.12]						12	840	10,080	
"	1	"	仮設機械整備, 機械据付補助	[Bar chart showing presence from 1971.4 to 1972.12]						21	500	10,500	
Electrician	1	電気工事	電気器具管理, 整備, 配線等	[Bar chart showing presence from 1971.4 to 1972.12]						18	840	15,120	
"	1	"	"	[Bar chart showing presence from 1971.4 to 1972.12]						21	500	10,500	
Architectore	1	建屋工事	ドックマスターハウス, 受電 所, ポンプ室	[Bar chart showing presence from 1971.4 to 1972.12]						8	840	6,720	
Business Manager	1		渉外事務他	必要時(7回)						7	840	5,880	
Clerk	1		人事, 勤労, 厚生, 経理	[Bar chart showing presence from 1971.4 to 1972.12]						21	500	10,500	
計	17											179,880	

給料		US\$ 179,880
現地手当	20 %	" 35,976
渡航費	8750/time 30回	" 22,500
生活費		" 18,200
備品費		" 2,800
事務用品費		" 3,500
諸経費	80 %	" 143,868
技術報酬	20 %	" 35,976
合計		US\$ 442,700

FINANCIAL SCHEDULE OF GRAVING DOCK PROJECT



NOTES

- = REQUIRED BUDGET (UNIT 1,000,000)
- = INCOME (UNIT 1,000,000)

国防治安省

決 定 書

NO. : KEp/B/177/IV/1970

旧対日賠償プロジェクト在スラバヤ海軍グレーピング・ドック・プロジェクトを国防治安省関係5ヶ年計画プロジェクトとする件

国防治安大臣兼国軍最高司令官は

1. 在スラバヤ海軍グレーピング・ドック・プロジェクトの資金源たる対日賠償の終了に伴ない、上記グレーピング・ドック・プロジェクトの継続及び完了のため、然る可き措置を構ずる必要があること及び
 2. 国家経済向上のためのインフラストラクチュアーとしてこの船舶港湾施設に対する需用を充足せしめるといふ見地から旧対日賠償プロジェクトたる海軍グレーピング・ドック・プロジェクトを国防治安省関係5ヶ年計画プロジェクトとして完成せしめることが必要と考へられることを考慮し、且つ
1. 5ヶ年計画に関する1968年大統領決定第319号
 2. 1969年大統領決定第132号の完全実施及び国防治安省の組織並びに手続に関する1969年大統領決定第79号及び
 3. 国防治安省の強化、就中5ヶ年計画及び総選挙の実施成功のための国軍の団結(1970年の各軍司令官宣言)に関する指令 Ins/B/II/1970 のうち軍事輸送のための全水陸両用輸送装備及び全水上輸送装備の建造及び保全の中心組織として海軍を指名している部分に鑑み下記の通り決定する。
 1. 旧対日賠償プロジェクトたる在スラバヤ海軍グレーピング・ドック・プロジェクトを国防治安省関係5ヶ年計画プロジェクトとする。
 2. 当該プロジェクト経費は爾後国防治安省が負担し、(国防治安省関係5ヶ年計画経費)プロジェクト実施の責任は海軍に負わしめることとする。
 3. 1970/1971会計年度より起算して3ヶ年間に亘り国防治安省関係5ヶ年計画経費から支出される総計5億4千万ルピア-のプロジェクト経費は海軍に委託される。
 4. 海軍はプロジェクト実施報告書を国防治安省に提出する。
 5. 本件プロジェクトとの関係で現在までに発出された総べての命令書、決定書及び指令書は本大臣決定と抵触しない限り、有効とする。
 6. 本決定書は決定の日付を以て効力を発生する。

於ジャカルタ

1970年4月25日

国防治安大臣兼国軍最高司令官

印/署名

スハルト(SOEHARTO)

陸軍大將

MABKAS BESAR ANGGKATAN LAUT

Alamat Telegram :

Murus diterangkan djabatan, nama kapal, asrama atau Djawatan.

Diminta dengan hormat dalam membalas surat ini, nomor dan tanggalnya disebutkan dengan terang

bahagian: ASKAMAT/PUT.

KEPADA

MR. ARIKOTO

CHIEF OF THE JAPANESE TECHNICAL SURVEY
TEAM FOR THE GRAVING DOCK.

tanda surat Tuan

surat Tuan tgl.

nomor kami

Djakarta,
Tanggal

February 6, 1971

PUT/016-I/71

Perihal : The Graving Dock Project.

Lampiran : -----

Dear Sir,

In accordance with your question at the BAPPENAS meeting that has been held in December 22th 1970 last year, concerning the management and administration of the Graving Dock after completion.

Herewith I inform you that the Graving Dock after completion would be controlled and operated by a civil Commercial & Industrial Body, that cooperate with the NAVY and the Ministry of transportation for repairing of all types of ship.

We trust that this statement will be satisfactory and thanks for your letter dated December 28, 1970.

Sincerely yours,



Col. WIRIP SUBYANTO

On behalf of the Chief of Materials
of the Indonesian NAVY.

cc :

1. KAMATAL
2. Archives.

